

# Central harmony

MONTHLY NEWSLETTER OF LA CENTRAL JAPANESE SDA CHURCH  
August/September 2010 - VOLUME 1

## 「目を上げて見よ」

時には人の命さえ奪うことのあるさまざまな事故。そういう事故において、「もう少し落ち着いて対処してさえいれば死ぬこともなかったのに」と思わされるような事例がたくさんあるのだそうだ。

ある人が書いていることだが、その人が子供の頃、川遊びをしていた男の子が溺れるのを見たのだそうだ。初めのうちは、誰もその子が溺れていることに気がつかず、水の中に倒れ込んで足をばたばたさせているその子を見ても、ただ水の中で遊んでいるとしか見えなかったのだそうだ。だが、やがてその子が本当に溺れて苦しんでいることが明らかになると、周囲の子供たちはパニックを起こした。誰もどうしていいかわからず、なすすべもなくただ溺れている子を呆然として見ているだけだったが、そのとき、「立てえ！」と大きな声が響き渡った。橋の上にいた彼の姉の声だった。その声に、びっくりしたように立ち上がる弟。立ってみると、水は彼の膝下くらいまでしかなかったのだ。ちよろちよろと流れるわずかな水に、彼は顔を突っ込んでもがき、溺れていたのだった。

先ほども言ったように、専門家によれば、もう少し落ち着いてさえいれば助かったのに、という事例は枚挙

に暇がないのだそうだ。話は変わるが聖書の中で好きな言葉の一つに、「目を上げてみる」というのがある。苦しみの中で、悲しみのさなかに、溺れているときに、「立てえ！」という姉の声のように、「目を上げてみよ」という神の声が響いてくるのである。

アブラハムは我が子を失わねばならない絶望的な悲しみのただ中で、「目を上げて見よ」と身代わりの羊（イエス・キリストを象徴していることは言うまでもない）が見えた（創世記 22:13）。

バビロンの王ネブカデネザルは、おごり高ぶった結果、発狂し、牛のように涎を垂らして草を食べていたが、「目を上げて」見ると突然理性が彼に帰ってきて、前にもまさる大いなる王となった。

（ダニエル書4:34）  
困難があまりにも大きく見えるとき、自分を憎む人々に囲まれてしまったと思われるとき、悲しみのあまり胸がつぶれてしまいそうなとき、もうだめだと思うとき、希望は潰え、救いの道も見えなくなる。

だが、そんなとき、主イエスのやさしい声が響いてくる。「目を上げて見よ」と。「立てえ！」と弟に叫んだ姉の声のように、あなたを立ち上がらせる。

するとどうしたことだ！あなたの頭を越え、完全にあなたを滅ぼしてしまうかのように見えていたあの大水が、主のみ手の中にあって、ただ膝下をちよろちよろと流れる水でしかないことにあなたは気づくのだ。

とおる牧師

PR/Communication  
Staff:  
Mika Aoki  
Fumi Shigemori  
Masaki Vance  
Pastor Samuel Chung

Contributing Writers:  
Elder Nozomu Obara  
Elder Toru Nakamura

*\*Central Harmony is a bi-monthly publication and serves as the official newsletter of the LA Central Japanese -American Church.*



当教会のバイリンガルのニュースレターが、本日再発刊されますことを心およろこび申し上げます。  
さて、以前どこかでお話しさせて頂いたことの繰り返しで大変恐縮ですが、当教会の諸先輩が、戦争の悲劇を体験された後、今から59年前の献堂式で宣言されたひとつの行が私の脳裏から離れません。それは、「悲しむ者に慰安を、試練を受ける者に力を……貧しき者を助けて、不幸なる者に救済を興へ……又正しき生活を助長すべく、神よ、此の家を汝に献堂せん(「羅府日本人セブンデーアドベンチスト教會献堂式次第」、1951年11月24日より)。」の言葉です。当時、ボイル・ハイツで献堂された教会堂は、時代の流れによって、既に私たちのものではなくてしまいました。その献身の志は、今も変わりません。この教会が、ロサンゼルスの人々にイエスの愛を生きる共同体として精進するため、また、失われた魂が救われる働きのため、聖霊がこの教会に降下するようにと、こころからお祈りしています。

最後にひとつお願いがございます。読者みなさんのなかで、もし、お近くで救霊の場面を目撃された方、互いに労り合うエピソード等を聞いた方は、是非、ニュースレター編集委員(教会コミュニケーション委員会)にお寄せくださいますようお願い致します。みなさんと御一緒に恵みを分かち合いたいからです。生きた証しにお互いが触れ合うことを通して、神の国を体験できるからです。みなさまが、父なる主の大いなる愛と、イエス様の計り知れない恵みと、聖霊様の親しき交わりとによって祝福されますように願い、ご挨拶とさせていただきます。

教会牧師 小原望

Of the many things that have impressed my family and I during our time at LA Central Japanese is the close family environment this church fosters. Although the church itself is comprised of so many different groups of related families, the nature of the church is one that each group has a sense of belonging and having a place in the greater whole of the church.

No better an example can there be when we relate this to the early writings of Paul and that the church was not meant to be identified as a physical building to have people worship. Rather it referred to the actual group of people themselves being the body of the Risen Savior, Jesus Christ.

Though our church is comprised of many generations of Japanese-Americans and most distinctly identified each Sabbath by Japanese and English Language services, I'm sure that all of our members would agree that our God-given purpose encompasses much more.

As we renew our approach to the newsletter to a bilingual format, we hope that our unified approach will encourage our members of all backgrounds and positions to be one. We also do not forget the hard work of those who have taken this task of writing on in the past. It is the hope of our church leaders that all of us can have a renewal of vision and purpose as we work to share with one another the living testimonies of our lives together with God.

Samuel Chung, Associate Pastor for English Ministries



### 婦人会主催ビーチ集会 重森史

7月25日は婦人会主催で、Huntington Beachに約65人ほどが集まり日曜日を楽しく過ごしました。Mrs. Robin Chungをはじめ、皆さんがおいしい昼食、おやつなどを持ち寄ってくださり、男性はすすんでバーベキューをしてくださり、広い海、空を眺めながら心もおなかも満たされました。子供たちは、波打ち際でちゃぷちゃぷ、砂に埋もれあったり、貝殻で遊んだりして楽しんでました。

当初、2時ごろまでの予定でしたが、大人も子供も2時に帰る様子がなく！！帰り支度をはじめたのは、4時ころからでした。またこうして大人も子供も楽しい時間をすごせるようにこのような計画をしたいと思います。皆様のご協力に感謝します。神様の祝福がたくさんありますように。

## Getting to know you...

by:Fumi Shigemori

### Getting to know our church family

Name: Teruko Kobayashi  
Birthday: May 6, 1939. Turned 71 years old this year!

She has been living at the house that is 7 minutes away (by foot) from San Gabriel Academy since 1978. She welcomes guests from Japan who visit Southern California for work, study or pleasure. Some of them stay with her for extended time and some of them for short time. Nonetheless, she accepts them with the same level of hospitality and with her delicious cooking.

Worked as dental assistant for 8 years and as teacher's aid for special education school for 25 years. There were times she did both at the same time!

She doesn't really have anything that she dislikes to eat. Her favorite phrases are "Thanks to the Lord!" and "a- shindo! (so tiresome!)".

### Women's ministry beach outing

Women's ministry organized a gathering on July 25 at Huntington Beach. About 65 church members and friends got together and enjoyed the Sunday in fellowship. Mrs. Robin Chung and others brought delicious lunch and snacks. Men took care of barbeques. As we enjoy view of grand ocean and sky, both our heart and stomach were filled with satisfaction. Children were enjoying themselves around shore playing with sand and shells.

Originally, the program was planned till 2:00 pm, but no one seemed to be leaving then. It was around 4 pm, when people were started packing up to leave. We would like to plan similar event in the future where adults and children can enjoy each other's fellowship. Thank you all for your support for the event and may God bless you.



名前 小林輝子

生年月日 1939年5月6日 今年で71歳になりました！

サンゲールアカデミーから徒歩7分のところに1978年からずっと住んでいます。こちらで日本から仕事、勉強、または遊びで来たお客様を長期、短期の宿泊にお部屋を開放し、輝子さんご自慢の美味しい日本食を振

舞ったりし多大な奉仕をされてきています。

職歴 歯科助手 8年、養護学校でteacher's aid 25年 同時にこの2箇所を掛け持ちで働いていた時期もありました！

好きな食べ物 嫌いなものはなくなんでも感謝して食べます。

口癖 感謝、感謝！！、あ～しんどっ！！

今、一番の楽しみ 孫さんの11歳の心(しん)君と5歳の叶(かな)ちゃんと遊ぶことです。もっとも私(輝子さん)がこっちにもあっちにも引っ張られながら・・・！！遊んでいます。



「トータルライフは私の恩人」

ある昼下がり、トータルライフセミナーのランチで、参加者の若いお母さんが心から感謝していることを教えてくれた。

彼女の名前は、「鬼嫁」。(トータルライフのブログでは、ペンネームならぬ、ブログの名前を使って参加しているが、彼女は自分のことを「鬼嫁」と呼んでいる)男の子3人の母、日系人の旦那様。という家族構成である。

「わたし、実は、トータルライフに参加しはじめた数年前、旦那のDVが原因で、離婚しようとしていたんです」と鬼嫁さんが話しはじめた。トータルライフ参加前、彼女の結婚観は、「紙一枚の関係」であった。「所詮、役所が結婚の制度を認識し、夫婦は、それをたった紙一枚にハンコを押せば成立するだけの関係」と信じていた。だから、同棲生活も結婚も代わらないというのだ。

にもかかわらず、渡米後、鬼嫁さんは、現在のご主人と正式に結婚、籍もいれて、新婚生活を過ごした。しかし、3ヶ月経った頃、姑の介護の世話と仕事で忙しく、夫婦の間がギクシャクし、さらに旦那が、DV(ドメスティック・バイオレンス＝家庭内暴力)であることが発覚、「ほら、やっぱり、結婚なんて信じられない。」と思った。「離婚してやる！」と鬼嫁さんは固く決意した。なぜなら、人前では人当たりがとてよく、「いい旦那」を演じているご主人が、家族の前では、暴れることが度重なっていたからだ。そのような状況を周囲を理解してくれるはずがない。なにせ、人前では「いい人」なのだから。そこで、鬼嫁さんが考えた作戦は、夫婦カウンセラーを利用して、第三者に入ってもらい、離婚のプロセスに踏み切った。もちろん、旦那には内緒で。ご主人と鬼嫁さんがカウンセラーに会って、セッションを受けても、「DVの正体がなかなかカウンセラーに理解されなかったんです。」と。「こんなだったら、独身自体の自由気ままなほうがずうっとまじだった！」と後悔の日々だった。

ところが、ある日のセッション。長い話は省略し、「旦那が、カウンセリングのセッション中に、星一徹のごとく、お膳をひっくり返すほどの勢いで、切れてくれたんです！」「正体バレたんです！」と鬼嫁さんが嬉しそうに説明した。それがきっかけとなって、ご主人の態度が一変し、一生懸命、自分と結婚生活を見直しはじめ、DVの旦那様が少しずつ代わりはじめた。その姿に感激した鬼嫁さんは、「あんなにひどかった旦那が必死に自分に向き合っていて、自分も代わらなければ、申し訳ない」と感じた。

この頃、トータルライフに参加しはじめたのだそう。そのとき、他の参加者のお母さんから、こんな話を聞いた。

「わたしの旦那は、どうしようもないんです。女癖、金癖がわるく、家庭を一切顧みてくれないんです。でも、そんな夫を選んで、結婚したのは、私だし、結婚とは、そもそも、松田直枝先生が、いつも教えてくださっているように、いいところも悪いところも一切含めて夫婦なんですよ！だから、すべてを受け入れます！」と、明るく発言したそう。これを聞いた鬼嫁さんは、「そうだね。わたしの旦那のDV問題は、実は、彼だけの問題でない。一緒にそれに取り組んで、乗り越える事が夫婦なのだ！」と気づいた。

その頃、再び「星一徹」の爆発があったが、「たった、一度の爆発くらいで、『ほうら、また繰り返して、もうやだ！ やっぱり離婚！』と考えるのは、違う！」と、鬼嫁さんは、感じた。それから、5年程たった現在、DVはなくなり、鬼嫁さん夫婦は二人で多くの問題に取り組み、温かい家庭を築くために励んでいる。「こんな夫婦になれたのは、トータルライフの影響が本当に大きいんですよ！トータルライフは、私にとって、心のおちつく、良いものを与えてくれるところなんです！夫婦関係を立ち直らせた恩人です。だから、感謝でいっぱいなんです！」と、彼女の瞳は、遠くを見つめながら、ちょっとだけ潤んでいた。

これからも、こんなエピソードが続々と生まれることを、トータルライフは、願っている。

### Total Life is My Benefactor

One early afternoon during lunch at a Total Life Seminar, one of the young mothers shared with me something she was sincerely thankful for.

Her name is “Oniyome”, which is actually a pen name she gave herself and uses when she blogs for Total Life. Her family unit is composed of 3 boys and a Japanese-American husband.

She began to reveal, “Truth be told, a few years back when I first started attending Total Life, I decided to divorce my husband due to the domestic violence I was suffering.” Before attending Total Life, her perception of marriage was that of “one sheet of paper”. “After all, the local <Japanese> government recognizes the institution of marriage in one sheet of paper – a couple only needs to get an official stamp on that paper and their marriage is finalized,” she explained. Therefore, in her mind, there was no difference between living together and being married.

In spite of her feelings, after arriving to the U.S., Oniyome officialized her marriage to her husband and proceeded to live out her life as a newlywed. However, after about 3 months, she was overwhelmed with the duty of taking care of her mother-in-law, which caused a strain on her marriage, giving way to episodes of domestic violence. She determinedly exclaimed to herself, “See! Marriage is a joke! I’m gonna get divorced!” Being well mannered in the public eye, her husband played his role as “the good husband” well, but at home his mask came off and his true form was revealed time and time again. She felt nobody would ever believe or understand the circumstances she was dealing with because of her husband’s “good husband” image. It was at that point Oniyome changed her tactics and enlisted the help of a marriage counselor, in hopes to get a third-person perspective and take the plunge into the divorce process.

They met with the counselor, though Oniyome had ulterior motives and secretly wanted a divorce. The sessions were proving to be fruitless, as she explained, “Because the counselor didn’t understand the violence issues, there was no sympathy.” She told herself in regret, “If this is what marriage is all about, I should’ve stayed single!”

Nonetheless, another counseling session came. “To make a long story short,” she explained, “in one particular session, like a supernova, my husband lost it and exploded in anger! His true colors had finally shown!” she told me joyously. Because of that incident, her husband’s behavior did a 180 and he started to sincerely look at their marriage differently and, little-by-little, her violent husband started to change. Oniyome was so impressed by how her husband started to transform. She thought to herself, “If someone as bad as my husband can face himself like he did and begin to change, then I need to do the same.”

It was at that time Oniyome began to attend Total Life and coincidentally, heard another mother share her experience with her husband. “My husband is worthless!” she exclaimed. “He’s promiscuous, blows money away, and does nothing to support the family! However, I am the one who chose that man and I am the one who decided to marry him. Just like Mrs. Naoe Matsuda always told me, ‘From the start of a marriage, a couple needs to accept both the good and bad of each other.’ So I therefore accept everything,” she cheerfully proposed. Upon hearing this, Oniyome contemplated, “My husband’s violence issues aren’t entirely his problem – tackling and resolving issues like those, together, are what marriage is all about.”

After that time, there’s been only one more “supernova”. Oniyome clarified, “You can’t say, ‘He’s doing it again! I’m done! I can’t stand it anymore! I’m getting a divorce!’ just because there’s been one more explosion.”

Fast forward about 5 years to the present, Oniyome’s marriage is violence-free, having tackled many problems together with her husband. They continue to nurture their family together. “We were able to become this close as a married couple because of the influence of the Total Life ministry! Total Life, for me, is a place where my heart can be at peace and I can receive many good things. It is the benefactor of my saved marriage. I am so thankful for the Total Life ministry!” she exclaimed, misty-eyed.

It is the desire and prayer of the Total Life ministry to have many more stories like this.

## Mission Trip to Japan



### LACJ 2010 Japan Mission Trip Report (Part 1) – by Masaki Vance

From July 13th to August 2nd, our LACJ church sent a mission team to Japan to help with our sister churches' VBS programs – something LACJ has never done before. This team was comprised of Amy and Michelle Matsuda, Elissa and Brianna Imai, Jessica Alfaro, Ariel Mizumoto, Maki (Kaneko) Vance, Dee Imai, and our pastors, Toru Nakamura and Sam Chung. Building, preparing, and sending out a team was no easy feat, and through the power of the Holy Spirit, the team was able to touch the lives of many Japanese children. Since the rest of the team has yet to return at the time of this writing, I've asked Maki, one of the leaders, to tell us more about the mission and share what it was all about.

Harmony (H) – Tell us a little more about what the purpose was and where the team was ministering.

Maki (M) – Our main purpose was to evangelize and share God's love with the people of Japan. Only 0.03% of the population is Protestant Christian! The second purpose was discipleship training for our youth. Our pastors and elders realize the need for this as the youth are the future of LACJ. We assisted our sister churches at Kashiwa, Ookayama, Irumagawa, Sekimachi, Amanuma and San-Iku College. We also implemented an English Camp at Lake Nojiri, which I personally couldn't attend due to work obligations here in the States.

H – Can you describe what you mean by "discipleship training"?

M – Discipleship Training is exactly how it sounds – to make

us into Jesus's disciples. We want our youth and collegiate to grow spiritually and develop the leadership skills they each possess. As we all are of Japanese descent and are members of a Japanese church, we would like them to develop a deep burden for the Japanese community. These are key elements in becoming a future leader of LACJ.

H – What did the team do to prepare themselves, practically and spiritually, for the mission?

M – We met weekly to have Bible studies to strengthen our faith and our relationship with God. We prepared for the VBS activities, rehearsing the Japanese songs, sign language routines, and even a hula dance! Elissa and Michelle attend PUC, so they joined us via Skype. Spending time with each other allowed us to get to know each other well, build trust, and bond as a team.

H – What activities did you plan and do?

M – Most of the programs had a theme that advertised learning English, therefore we taught children songs with hand motions, played games, told Bible stories, and made crafts – all in English! At San-Iku College, we had JHOP (Japanese House Of Praise), which is a night of worship and thanksgiving by singing praise songs, sharing testimonies, and spending time in prayer. Many of the college students came up to me afterwards and shared how much they enjoyed JHOP – they hadn't ever



## Mission Trip to Japan

experienced that style of worship. One of the students even accepted Christ that evening! Although San-Iku College is an Adventist institution, less than 20% are actually Christian!

which we were obviously unprepared. But I feel that this was also part of the discipleship training – where the girls were forced to step-up to the plate and resolve issues as they came.

heard.

H – Would you go again or recommend others to go, if the mission was available next year?

M – Most definitely! I can't stop thinking about the children we met and the relationships we built with those children and fellow leaders. It makes me sad to think that I may never see them again and witness the growth of the seeds we planted. We were all stretched in ways we never experienced before. I'm grateful for those challenges because I feel I came back a stronger person. I feel a deeper

burden for the Japanese community and the urgency to share God's love with those people. If this mission trip opportunity is available next summer, I encourage everybody, not only students, to participate in this wonderful experience. Not only would the children be blessed through you, but YOU will be blessed and return a different person. In Matthew 28:19, Jesus said to go and make disciples of all nations, and that He is with us always. I say, don't make any more excuses. Just GO!

In the next issue of Harmony, Part 2 of this mission report will feature testimonies and experiences from the rest of the team. We can't wait to hear how God has worked through them and in their lives!



H – Did you have any free time to enjoy Japan?

M – Yes! The JUC leaders were so gracious to take our team to Mount Fuji, Asakusa, Odaiba and other popular attractions in and around Tokyo. We even got to eat fresh sushi at Tsukiji, although most of the girls ended up eating kappa-maki and os-hinko-maki! Mottainai!

H – What were some of the challenges the team was facing?

M – The main challenge was the language barrier. Apart from Pastor Nakamura and me, the team did not speak Japanese, but that didn't stop the little children from speaking to the team and wanting to play with the Americans. There were also instances where we were faced with unanticipated tasks, for

H – How did the Holy Spirit help you deal with these challenges?

M – As Pastor Nakamura taught us before our trip, the Holy Spirit worked in amazing ways despite the language barrier. Pastor Nakamura said that we must trust in the Holy Spirit to give us the gift of tongues and speak through us. We truly felt that despite the barrier, we were able to connect with the children. At those times when we were put on-the-spot, the Holy Spirit gave us words to speak and the courage to fulfill our duties. As for myself, I was often asked to interpret, and that has always been a difficult challenge for me. I would spend some time in prayer before interpreting to ask God to give me the words to speak. Although I did stumble on my words at times, I trust that the Holy Spirit delivered the message that was meant to be



### ロスアンゼルスセントラル教会日本ミショントリップリポートパート1

#### ヴァンス雅樹

7月13日から8月2日まで、ロスアンゼルスセントラル教会（以後LACJ）は日本の教会で行われる夏期聖書学校のお手伝いを目的とした、ミッションチームを日本へ送りだしました。LACJとして初めての試みです。チームのメンバーは、松田エイミー、ミシェル、今井エリッサ、ブリアナ、ジェシカ・アルファロ、水元アリエル、ヴァンス(旧姓金古)真季、今井ディ、そして牧師の中村透先生とサム・チャンク先生です。

ミッションチームを育て、送ることはたやすいことではありません。しかし聖霊様の力により、このチームは、多くの日本人の子供たちと触れ合うことができました。現時点では、チームメンバー全員の帰国はまだですが、先に帰

国したリーダーの一人のマキさんにお話を聞いてみました。

ハーモニー(以後H)ー今回のミショントリップの目的、行き先など話していただけませんか？

まき(以後M)ー主な目的は日本の人たちに伝道し神様の愛を分かち合うことです。日本では、たった0.03%の人がプロテスタント系のクリスチャンです。第二の目的としては、若者の神様の弟子として働くことのトレーニングです。若者がLACJの将来を担う次世代であるということで、牧師、長老の方々は、このような活動の必要性を考えました。柏教会、大岡山教会、入間川教会、関町教会、天沼教会そして三育学院大学で奉仕をしました。野尻湖で英語キャンプの開催もすることになっていますが、私は、仕事の事情により一足先に帰国をしたので参加できませんでした。

Hー神様の弟子として働くこと、そ

のトレーニングについて話してください。

Mーその言葉のとおりなのですが、イエス様の弟子になるということです。私たち教会の若者の霊的な成長とリーダーとしてのスキルをみがいてくれることを願っています。私たちは、日系人であり、日本人教会のメンバーですが、日系コミュニティーの事情を深く理解することは、LACJ教会の将来のリーダーになるのに重要なことであるからです。

Hーこのミショントリップのためにチームはどんな霊的なまたは、実質的な準備をしたのですか？

Mー信仰を深め、神様との関係を深めるために毎週聖書研究をしました。聖書学校の準備としては、日本語の歌を学んだり、手話やフラダンスの練習などもしました。エリッサとミシェルはPUCに行っていますが、スカイプをとうしてこれらの活動に参加しました。こういった時間をとうして、お互いのことを知り合い、信頼関係を築きチームとして結束していきました。

Hーどんな伝道活動を企画したのですか？

Mー殆どのプログラムで、英語を学ぶことが謳われているので、英語で振り付けとともに歌を歌ったり、ゲームをしたり、聖書の話をしたり工作などをしました。三育学院大学ではJHOP (Japanese House of Praise/賛美の家)のプログラムを持ちました。JHOPは賛美、証そして祈りの夕べです。多くの大学生があとで、このプログラムをどれほど楽しんだか話に来てくれました。JHOPのようなスタイルの賛美の夜を今



まで経験したことがなかったのです。一人の学生はその夜キリストを受け入れました！三育学院大学はアドベンチストの教育機関ですが、20%以下がクリスチャンです。

H—自由時間はあったのですか？

M—はい。日本支部の方が、富士山、浅草、お台場など東京近郊の観光地に連れて行ってくださいました。築地で新鮮なおすしも食べました！ただ殆どのメンバーたちは、かつぱ巻き、おしんこまきをたべてました。もったいない！

H—大変なことはありましたか？

M—言葉の壁が一番大きな問題でした。中村先生と私以外に日本語を話すメンバーはいなかったのです。でも子供たちは、そんなことお構いなしに、チームと話したり、アメリカ人と遊びたがっていました。後は、予想していなかったことをすることになり、準備不足ということがありました。ただ、私はそれもキリストの弟子のトレーニングの一部と思います。メンバーは、与えられた状況の中で、問題に立ち向かって行くという経験をしたのです。

H—聖霊様の働きをそういった経験の中で感じることはありましたか？

M—中村先生が旅行前に話してくださったように、言語の壁を越えた聖霊様の働きを見ることができました。中村先生は、聖霊様が私たちに言語の賜物を下さり、私たちをどうして話して下さることを信じなさいとっていました。

私たちは、言葉を超えて子供たちと触れ合うことができたことと心から思っています。聖霊様が時には、言葉を、時には勇気を与えて

い人間になれたことに感謝します。日系の方々の救いを深く祈ると同時に神の愛を彼らに伝えることの重要性を感じていま



くださいました。個人的には、通訳をよく頼まれたことがチャレンジでした。通訳前に神様に言葉を与えてくださいとお祈りしました。スムーズに言葉が出ないときもありましたが、聖霊様が、メッセージを届けてくださったと信じてます。

H—このようなミッショントリップがまた来年企画されたら、行こうと思えますか？または、ほかの人に参加を勧めますか？

M—はい！この旅をどうして出会った子供たちやほかのリーダーのことをよく考えますが、もう二度と会うことはなく、その植えた種が育つのは見ることはないのだと思うと寂しくなります。私たち皆いまだに経験したことの無いぐらいぎりぎりの思いをしましたが、そういったチャレンジをどうして前より強

す。このようなミッショントリップがまた来年企画されるなら、学生だけでなく、ほかの方々にも参加をお勧めします。聖書学校に来る子供たちが祝福されるだけでなく、ミッショントリップに参加される人も祝福され違う人となり帰国するでしょう。マタイ28章19節で、イエス様は、あなた方は行って、すべての民を私の弟子にしなさい、私はいつもあなたがと共にいるとっておられます。色々できない理由を考えずに、ただ行きましょう！

次のハーモニーでは、パート2として、他のミッショントリップのメンバーの証、経験などをお伝えします。神様が彼らをどうしてどう働いてくださったのか話を聞きたいと思います！

<http://www.centraljapanese.org/>

visit us at our website:



# ロサンゼルス日本人中央教会

LA CENTRAL JAPANESE SDA CHURCH  
1005 E LAS TUNAS DR #144  
SAN GABRIEL CA 91776

Place  
Stamp  
Here

*LA Central Japanese SDA Church - Newsletter*